

第2学年 生活科学習指導案

日 時	平成21年11月5日(木) II校時
児 童	男子16名 女子13名 計29名
指導者	一戸 和香子
場 所	2年2組教室

1 単元名 みんなでつくろうフェスティバル

2 単元について

本単元は、学習指導要領の内容(6)「身の回りの自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使うものを工夫して作り、その面白さや自然の不思議さに気づき、みんなで遊びを楽しむことができるようにする」に基づいて設定したものである。

ここでは、身近にある自然を利用したり、身近にある物を使ったりして、遊びの工夫や、遊びに使う物を工夫しながら作ることが主な活動である。そして、その活動を通して、遊びの面白さや自然の不思議さに気付くとともにみんなで遊びを楽しむことができるようにすることを目指している。

児童は、今まで地域の祭りに参加し出店を楽しんだ経験や、御輿作りや神楽を体験した児童が多い。また、秋の木の実や草花で遊んだりおもちゃを作ったりした経験もある。児童は、創作活動が大好きであり、何人かはアイデア豊かに材料を利用して製作することができるが、何を作るか決まらない児童や周りの児童の模倣で終わる児童も数多くいたために、自分なりに工夫し材料を生かして作り出す喜びを全員に味わわせることができなかった。そこで、本単元では、出店作りやおもちゃ作りにたっぷりひとたせ、創作活動の楽しさや喜びを味わせたい。普段の生活の中では、友達と力を合わせて1つのことを作り上げることは、あまり機会がない。それゆえ、友達のよさや自分のよさに気付くこともあまり経験がないであろう。「みんなでつくろうフェスティバル」をすることによって、気づきを経験させていきたい。

4月から1年生と「ペア」を組み、1年生の「がっこうたんけん」で校内を案内・説明したり、サツマイモの苗と一緒に植え収穫もペアと楽しんだりした。2年生になり、昨年を思い出し自分なりに1年生のペアに声を掛け思いやりをもって関わってきている。1年生の時には、2年生にフェスティバルに招待され楽しんだ経験があるため、フェスティバルに1年生を招待しようとするであろう。自分たちがつくったり遊んだりすることを楽しむだけでなく、自分たちより少し年下の身近な相手が、どうすれば喜んだり楽しんだりしてもらえるかを考えながら学習に取り組ませたい。

指導に当たっては、フェスティバルの計画や準備の中で、友達よさや自分のよさに気付かせるようにしたい。また、思考や感想、振り返りを記入できるカードを工夫し、自分の考えを伝える場としてグループでの話し合いを設定し円滑に進めることができるようにしたい。

身近なもののおもちゃ作りを中心とした製作の中で、制作活動をさせるだけでなく、グループの友達とのかかわり合いを通して、友達よさや自分との違いに気付いたり、相手の考えを尊重したりできる態度が身に付き、友達との関わりを深めたり広げたりしていくようにしたい。

3 単元のねらい

これまでに体験した行事や見聞きした行事を参考に、友達と協力して自分たちの行事の企画準備を工夫して行い、1年生を招待してみんなでフェスティバルを楽しむことができる。

【関心・意欲・態度】

- ・これまでに見聞きしたり参加したりした行事を参考にして、自分たちでもフェスティバルをやりたいという思いを持ち、進んで企画や実行をしようとしている。

【思考・表現】

- ・招待した人に楽しんでもらうために、楽しく遊べるおもちゃを作ったり、工夫したりしてフェスティバルをつくり上げることができる。

【気付き】

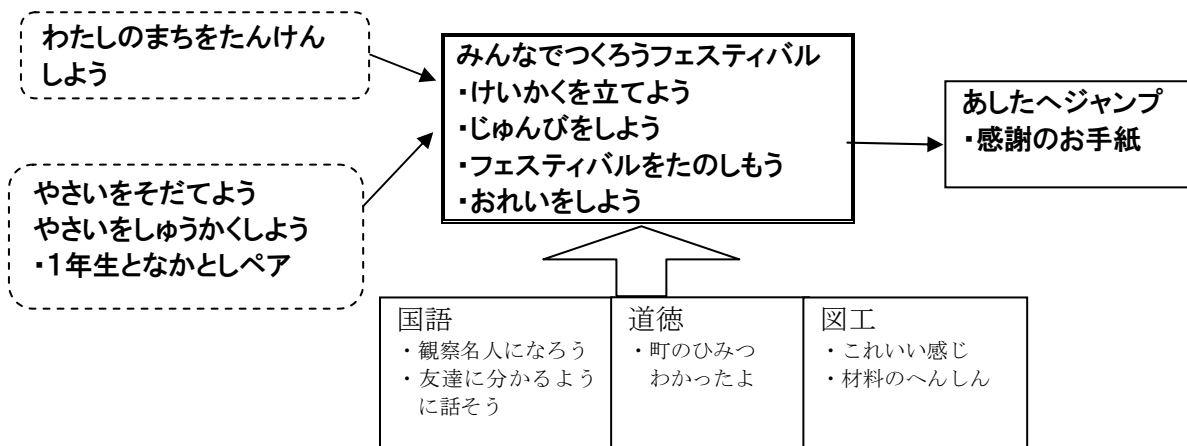
- ・友達と力を合わせることの大切さと楽しさに気付くとともに、関わりを通じて友達よさ、温かさに気付いている。

4 単元の評価規準

観 点	評 価 規 準
関心・意欲・態度	① 楽しいフェスティバルにするために、進んで計画を立てようとしている。 ② 材料を用意したり制作方法を調べたりして、フェスティバルに必要なものや作品を友達と協力して準備しようとしている。 ③ 招待した人や友達といっしょに、楽しいフェスティバルにしようと、進んで活動に取り組んでいる。 ④ フェスティバルのことを振り返り、来てくれた人に感謝の気持ちを伝えようとしている。
思考・表現	① みんなが楽しめるようなフェスティバルにするために、フェスティバルの内容や準備することを考えることができる。 ② 準備物や作品を工夫して作ったり、発表の仕方や遊び方を工夫したりすることができる。 ③ 招待した人や友達ができるように、フェスティバルの進め方や出し物の演じ方、遊び方などを工夫することができる。 ④ 自分たちが計画したことと、実際にフェスティバルでしたことを比べながら振り返るとともに、心のこもったお礼の手紙を書くことかできる。

気づき	<p>① これまでの活動を通して仲良くなった1年生を招待するとよいことに気付いている。</p> <p>② 発表の仕方や遊び方を助言し合う中で、友達のよさに気付いている。</p> <p>③ 友達と出し物の演じ方や遊び方を助言し合う中で、友達のよさや自分の成長に気付いている。</p> <p>④ 自分の思いを実現させるためには、さまざまな人の支えが必要であることに気付いている。</p>
-----	---

5 学習の関連



6 単元指導計画(計12時間)

段 階 (時)	活動名	○ねらい・学習活動	評価
出 会 う (3) 本時 1/3	計 画 を 立 て よ う	<p>○今までの生活科などの学習や行事へ参加した経験をもとにみんなが楽しむことのできるフェスティバルの計画をたてることのできる。</p> <p>・ 地域や幼稚園などのイベントに参加した経験を振り返り、どのようなフェスティバルにするか相談する。 [1]</p> <p>・ フェスティバルに来て下さる人に見せたいものや、やってあげたいことを相談してプログラムを決める [1]</p> <p>・ フェスティバルを行うために必要な準備について話し合い、仕事の分担を決める [1]</p>	<p>〈関－①②〉 〈思－①〉 〈気－①〉</p>

関 わ る (7)	じ ゅ ん び を し よ う	<p>○ フェスティバルに必要なものを協力して準備したり、フェスティバルの練習をしたりすることができる。</p> <p>(1) 準備をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各分担に分かれて、発表や遊びに必要なものを準備したりつくったりする。〔2〕 ・準備したものを使って発表の練習をしたり、遊び方の工夫をしたりする。〔1〕 ・教室の飾りつけや各コーナーの設置など会場の準備をする。〔1〕 	<p>〈関－③〉</p> <p>〈思－②③〉</p> <p>〈気－②③〉</p>
	フ ェ ス テ ィ バ ル を 楽 し も う	<p>(2) フェスティバルを楽しもう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェスティバルの会場を準備し、1年生を前にして会をオープンする。〔1〕 ・計画に従って、フェスティバルを行う。〔2〕 	
振 り 返 る (2)	お 礼 を し よ う	<p>○ フェスティバルが計画通りにできたか、来てくれた1年生が喜んでくれたかを振り返り、来てくれた人へのお礼の気持ちを手紙に書いて届けることができる。</p> <p>(1) お礼をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画プリントなどをもとに、自分たちがフェスティバルでできたことを振り返る。〔1〕 ・招待した人にお礼の手紙を書いて届ける。〔1〕 	<p>〈関－④〉</p> <p>〈思－④〉</p> <p>〈気－④〉</p>

7 本時の学習

(1) 仮説とのかかわり

仮説1:「気付きや課題意識をもたせるための工夫」にかかわって、次のような手立てを講ずる。

<出合わせ方の工夫>

フェスティバルの計画を進める中で、地域の祭りに参加したことや昨年フェスティバルに招待された経験を振り返らせて祭りへの意欲をもたせる。1年を通して1年生との「仲良しペア」で学校探検をしたりサツマイモの苗植えを体験し、収穫の喜びを分かち合ったりしたことを想起させ、これまでの活動を通してなかよくなった1年生を招待することが良いことに気付かせたい。また、1年生という相手意識を持ってフェスティバルの計画を立てることに気付かせたい。

<カードの工夫>

フェスティバルの準備の際手がかりとするため、班で1つのカードに出店の計画を記入させる。

学習の振り返りをさせるため、個人で記入できるカードを工夫する。

<環境構成の整備>

身近なものでおもちゃをつくる意識を育てるための環境として、次のような手立てを講ずる。

1つ目に、単元の導入の意識付けとして、常に学級文庫にリサイクルのおもちゃや動くおもちゃ、身近なものの利用などの本を置く。

2つ目に、夏休みの工作でよいものの仕組みを具体的に紹介する。

3つ目に、図工の「ざいりょうのへんしん」でもアイデアが浮かばない児童には、本を紹介する。

<相手や自分のよさに気付かせるためのグループ構成>

多くの友達と関わらせることをねらい、グループは、生活班で構成する。普段の遊び時間も決まった仲間とだけ遊ぶ児童も多い。活動をグループで相談し、工夫や助け合う経験を繰り返し積むことにより、互いの思いを伝え合ったり、友達のよさに気付いたりしながら身近な友達とのかかわりを深めさせていく。

(2) 学習のねらい

今までの生活科などの学習や行事へ参加した経験をもとに、みんなが楽しむことのできるようなフェスティバルの計画を立てることができる。

【関心・意欲・態度】

- ・楽しいフェスティバルにするために、進んで計画を立てようとしている。

【気付き】

- ・これまでの活動を通して仲良くなった人を招待するとよいことに気付いている。

(3) 本時の展開

段階	学習活動・予想される児童の反応	・留意点 ◇支援 ☆評価
導入 10分	<p>1 フェスティバルについて話し合う。 ・楽しそう。やってみたい。 ・誰をよぼうかな。 ・何をしようかな。</p> <p>2 誰を招待するのか考えさせる。 ・去年自分たちも招待されたから、1年生がいいと思う。 ・他の学年の人を招待したい。 ・先生たちやお家の人を招待したい。</p> <p>3 学習のめあてをつかむ。 ○○フェスティバルの計画を立てよう。</p>	<p>・地域のお祭りに参加した経験や昨年フェスティバルに招待されたことを写真などを提示し想起させる。</p> <p>◇どんなフェスティバルにするとよいか見通しを持たせる。</p> <p>☆これまでの活動を通して仲良くなった1年生を招待するとよいことに気付くことができたか。</p>
活動 25分	<p>4 したいことを話し合う。 (1)グループにわかれて話し合う。 ・祭りの夜店が楽しかった。 ・お店を出したいな。 ・○○の店がいいな。 ・別なものにしようかな。 (2)班のカードに記入する。</p> <p>5 発表をする。 ・○○のお店をひらきます。 ・○○おもちゃで遊べます。</p>	<p>・1年生を招待するという視点から、声かけし計画の見直しをさせる。</p> <p>◇今までの経験を思い起こさせ、様々な準備を発言させる。問いかけなどをして、共感的に受け止め思考を促す。</p> <p>☆楽しいフェスティバルにするために、進んで計画を立てようとしていたか。</p>
まとめ 5分	<p>6 まとめをする。 (1)今日の学習について感想を発表する。 ・カードに記入する。 ・感想を発表させる。 (2)次時の予告を知る。</p>	<p>・評価カードに記入し学習を振り返る。 ・感想を発表する。 ・次時の学習を知らせる。</p>